

「いま止めよう気候危機」横須賀シンポジウム 2025、2、16

横須賀石炭火力発電建設へのpeople powerの運動

岸牧子

1、横須賀は政府にとって、安全保障とエネルギー政策の要の街となる

2、「再エネ100%」へ、横須賀People powerの運動

①People Powerが動き出す、住民アンケートの取り組みから

*2020年、発電所の高台にあるハイランド地域が住民3000世帯へのアンケートを取り組む。

*2020年、コロナ禍で25620世帯へのアンケートへ、取り組みを拡大。

関わり手112名。返信約4074通、回収率15,9%でした。記述欄には本ができるほどの多数の声。

②ドキュメンタリー映画「グレタひとりぼっちの挑戦」上映会の取り組み

*アンケート結果から、一人ひとりがもう一步、関われる何かを探していた。

2021年12月、ドキュメンタリー映画「グレタひとりぼっちの挑戦」実行委員会スタート。

*ビラ、ポスターで気候のことが伝わる宣伝を重視。

・学園チーム・チラシを市内全ての小中高校に配布と校内にポスター掲示。

・ポスターチーム・「グレタ通り」を生み出す

*賛同団体を集める

49団体が賛同・飲み屋、パン屋、法律事務所、有機農家、ビーガンレストラン、焼肉屋、労働組合、市民団体など多岐にわたる。

・30代を中心に夫婦で生業を変え、持続可能な生き方を選んでいる方々と出会い、その広いネットワークを知る。変わろうとする胎動が起こっている。

*当日

・2022年、4月10日、目標800名を大きく上回る1011名の参加。

3人のスピーカーがメッセージしたのは「それぞれが主人公。次はあなた！」です。

③3回の「気候マーチ」を作る

*実際のアクションとして、4月24日「気候マーチ」をセットし映画に臨む。

映画を観た、5年生のRちゃん、高校1年生のNちゃんが、4月24日「気候マーチ」で初スピーチ。

*次の6月4日2回目の「気候マーチ」では、この2人が先頭に立つ。

・**マーチのテーマは「石炭火力を止めよう」の反対運動から始まるが、若い方々と動くうちに、より多くの人たちと繋がれる「再エネ100%社会を実現しよう」と、未来を展望する運動に変わる。**

*3回目のマーチは、若い世代が実行委員会を組む、参加のハードルが低く、一人ひとりが主人公になるマルシェとマーチを行う。

3、コップ26の作り方から学ぶ。People Powerでつくる！

気候の問題は人権。政治の被害は弱者に集まる。その当事者を先頭にPeople Powerで変える。

4、気候と軍事はつながっている。横須賀はその両方が見える街

今、地球は住めない星になる寸前です。戦争などしている場合ではない。

先進国は、CO2削減と同時に、軍事の撤廃目標を決め、核兵器禁止条約に批准すべき。

私たちは、戦争と気候危機を止めることができる最後の世代、力を合わせ政治を変えよう！

